

おきなわ



「支柱(泊大橋)」(平成23年度かりゆし美術展最優秀賞)
作成: 仲村 正さん(宜野湾市)

目次

- ② 特集 総合的な支援で貧困の連鎖を防止
「生活支援戦略」の概要
- ④ 赤い羽根共同募金運動スタート
- ⑥ 九州児童養護施設職員研究大会報告 他
- ⑦ 「シリーズ活動最前線」県障がい者スポーツ協会
- ⑧ 災害マニュアル策定事業モデル社協決定 他
- ⑩ 【ほっとニュースTOPICS】
ロンドンパラリンピック出場選手を激励 他
- ⑫ かりゆし長寿大学特別公開講座 他
- ⑬ 福祉機器展、各種研修会報告 他
- ⑮ 【インフォメーション】
沖縄県社会福祉大会及び芸能チャリティ公演 他
- ⑯ 福祉マニユアル策定事業モデル社協決定 他

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を充当しております。

特集

総合的な支援で貧困の連鎖を防止する

「生活支援戦略」の概要を見る

厚生労働省は生活保護制度の見直しなどを定めた「生活支援戦略」を今年の秋ごろをめどに策定することとしている。今号では平成25年から31年度までの7年間を対象としている同戦略の検討事項等(中間まとめ)を報告するとともに、沖縄県における生活保護等の現状と課題への取組みを紹介する。

全国的に生活保護受給者数は平成23年7月に過去最高を更新して以降、毎月増加している中で、年収20万円未満の給与所得者な

ど生活保護に至るリスクを負った経済的困窮状態にある人も増加している。また、複合的な課題を抱え、社会的孤立状態にある人の存在

も見逃ごせない。

こうした現状を踏まえて、厚生労働省の打ち出した「生活支援戦略」では、①本人の主体性と多様性を重視する。

②「早期対応」による「早期脱却」と「貧困の連鎖」の防止を図る。
③国民の信頼に応えた生活保護制度を構築する。

生活困窮者支援体制の確立に向けた検討事項

- ①経済的困窮者・社会的孤立者の早期把握
- ②初期段階からの「包括的」かつ「伴走型」の支援態勢の構築
- ③民間との協働による就労・生活支援の展開
- ④「多様な就労機会」と「家計再建+居住の確保」等の新たなセーフティネットの導入の検討
- ⑤ハローワークと一体となった就労支援の抜本強化
- ⑥「貧困の連鎖」の防止のための取組
- ⑦「地域の力」を重視した基盤・人材づくりと政策の総合的展開

生活保護制度の見直しの実施と検討事項

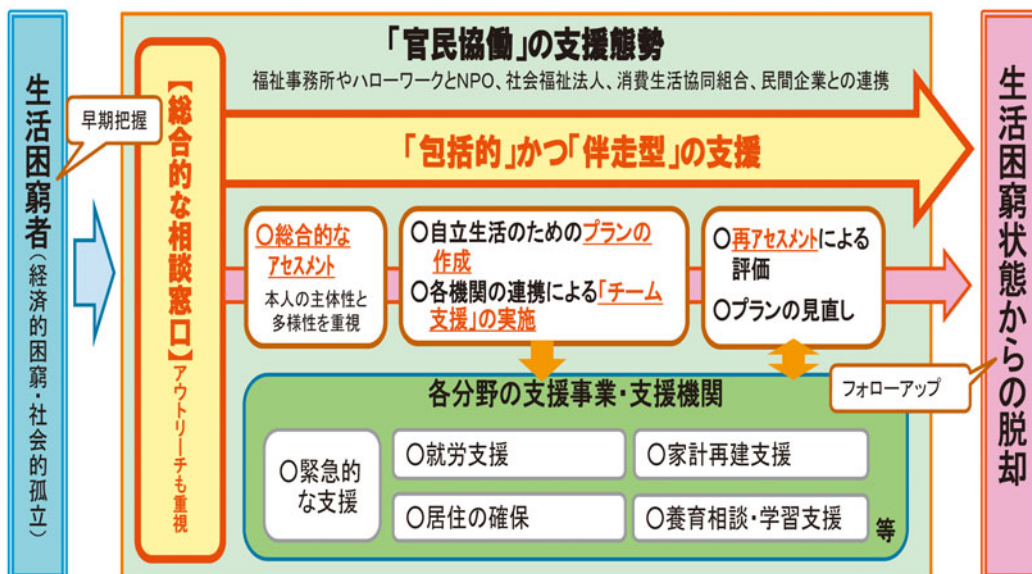
当面の対応として以下の2点を実施。

- ①生活保護給付の適正化
- ②就労・自立支援の強化

これらに併せて以下の5点を検討。

- ①生活保護基準の検証・見直し
- ②指導等の強化
- ③「脱却インセンティブ」の強化
- ④ハローワークと一体となった就労支援の抜本強化等
- ⑤高齢者や障害者などに対する社会的な自立の促進

総合的な相談と「包括的」かつ「伴走型」の支援

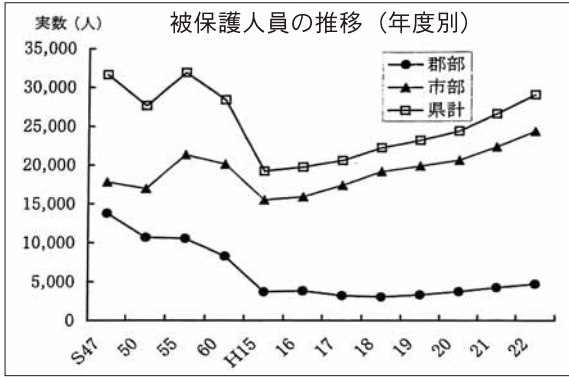
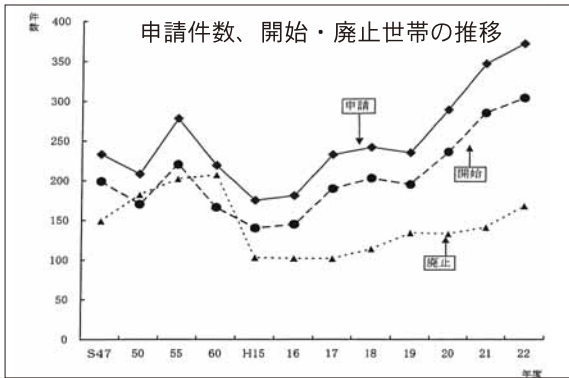


の3点の基本的視点に立ち、生活困窮者支援体制の確立と生活保護制度の見直しに総合的に取組み、生活困窮状態から「早期脱却」できるような重層的なセーフティネットの構築を目指す。

す。また同戦略では、福祉事務所やハローワークなどの公的機関がNPOや社会福祉法人等の民間企業と連携し、就労支援や生活支援事業を展開していくこととしている。

沖縄の生活保護の動向

本県における平成22年度の被保護世帯数は、1カ月平均19,982世帯、被保護人員は29,028人で、保護率は前年度から1・6ポイント増加し、年度平均20・53%となった。平成23年3月分の生活保護速報によれば、本県における生活保護の保護率は、全国で6番目の高保護率県となっている。この高保護率の要因としては、



② 産業が弱い弱で、労働市場が狭いであること
③ 離婚率が高いこと
④ 1人当たりの県民所得が低いこと
⑤ 持ち家率が低いこと
等が挙げられている。

一方、保護の廃止理由は平成22年度で死亡・失踪が38・7%と最も多く、次いで転出16・3%、働きの収入の増加6・1%の順となっている。

また、生活保護を受けていないものの、失業者や持病を抱えているなどそのリスクのある者の存在も考えなければならない。

社会的孤立や生活困窮者への支援強化にむけて「社協・生活支援活動強化方針(案)」を示される

全国社会福祉協議会では、これまでの全国各地の社協が実践してきた活動や事業を踏まえながら、今日的な社協の存在意義と役割を改めて整理していく必要があるとして、「社協・生活支援活動強化方針(案)」をとりまとめた。

この方針(案)では、今日の地域社会に現れている生活困窮などの深刻な生活課題や孤立などの地域福祉の課題にこたえる社協活動の方向性と具体的な事業展開について5つの「行動宣言」と2つのステップで整理した「アクションプラン」が示されている。

全社協では現在、方針(案)の周知及び意見照会を実施しており、出された意見を踏まえて協議・決定を行い、11月の社協活動全国会議にて発表する予定としている。

地域における深刻な生活課題の解決や孤立防止に向けたアクションプラン(総括版)

参考資料

「生活支援戦略」中間まとめ参考資料(骨格)、平成23年度版
沖縄県の生活保護、「社協・生活支援活動強化方針(案)」

	ステップ① *行動宣言の具体化に向けてすべての社協が取り組むべき事業展開	ステップ② *行動宣言の具体化するうえであるべき社協の事業展開
あらゆる生活課題への対応	1 行動宣言の社協役職員への周知と取り組みに向けた職員の意識改革 2 地域における多様な生活課題に対応する社会資源の把握及び連携 3 深刻な生活課題の解決や孤立防止にむけたプロジェクトや制度外サービスの対応事例の蓄積	1 生活困窮者等の支援や多様な生活課題の解決に向けた地域の関係機関のネットワーク(プラットフォーム)の形成 2 多様な生活課題に対応する新たな生活支援サービスや福祉活動の開発・実施 3 生活困窮者等への緊急的なサービスの開発・実施 4 地域住民、民生委員・児童委員、社会福祉施設等の専門機関、ボランティア・NPO団体等との連携による生活困窮者等への自立支援や就労支援プログラムの開発・実施
相談・支援体制の強化	1 「心配ごと相談」など多様な生活課題への相談に対応することの地域住民への周知 2 相談体制の充実 3 生活福祉資金貸付事業や日常生活自立支援事業を通じた生活困窮者等への支援の蓄積・強化 4 社協の各部所を横断するケース検討会の開催	1 「生活支援・相談センター」(仮称)等の看板の掲示 2 相談・支援担当職員の配置(相談員・ソーシャルワーカー等) 3 地域包括支援センターや基幹相談支援センター(障害者総合支援法)等の実施(受託)
アウトリーチの徹底	1 地域生活支援ワーカー(地域福祉コーディネーター、コミュニティ・ソーシャルワーカー等)のモデル配置 2 地域ケア会議のモデル実施 3 寄り添い型支援のモデル実施 4 地域の事業者・商店等との連携	1 地域生活支援ワーカー(地域福祉コーディネーター、コミュニティ・ソーシャルワーカー等)の配置(中学校区程度) 2 寄り添い型支援の事業化 3 地域の問題発見・支援のシステム化 4 介護保険等の在宅福祉サービスの地域展開
地域のつながりの再構築	1 住民の福祉活動の基盤としての「地区社協」や「校区福祉委員会」等(地域福祉推進基礎組織)の支援及び設置促進(小学校区程度) 2 見守りやサロン活動などの住民福祉活動の支援 3 小地域レベルでの地域を基盤とする福祉教育の充実と活動を行う地域福祉人材の養成 4 地域住民やボランティア・NPO団体との協働事業の開発	1 福祉委員や民生委員・児童委員等が担う身近な相談機能づくり(「福祉なんでも相談」等) 2 小地域における住民福祉活動の活動拠点の整備(小学校区程度) 3 小地域を単位とした地区・地域福祉活動計画の策定 4 地域住民やボランティア・NPO団体等の活動財源としての共同募金運動の活性化
行政とのパートナーシップ	1 社協における地域福祉推進の諸活動の評価と見える化 2 地域福祉推進の基盤整備への働きかけ 3 地域福祉計画の策定の推進 4 行政と連携した権利擁護・成年後見支援の体制整備	1 行政と協働した当該市町村における地域福祉推進の状況の評価 2 権利擁護・成年後見支援センター等の受託実施

赤い羽根共同募金運動スタート！

テーマ『じぶんの町を良くするしくみ。』



運動期間 10月1日～12月31日
平成24年度目標額 2億2042万1千円

赤い羽根募金は、あなたの町で助けを必要としている人達の為に役立てられます

今年も赤い羽根共同募金運動が10月1日から12月31日まで、「じぶんの町を良くするしくみ。」をテーマに全国一斉に展開される。沖縄県共同募金会においても運動初日に合わせて、全日本空輸の協力により第51回「赤い羽根空の第1便伝達式」を那覇市のパレットくもじ前広場(午後12時)で開催する。伝達式では、厚生労働大臣から県知事・那覇市長へ、中央共同募金会長から沖縄県共同募金会長・那覇市共同募金委員会会長へ客室乗務員よりそれぞれにメッセージと赤い羽根を伝達する。

平成23年度の募金運動は、東日本大震災の義援金募集との並行で実施を余儀なくされたために前年度に比べ実績額の落ち込みが懸念されたが、募金総額1億913万1千円、達成率84.8%と30市町村が前年度実績額を上回り、平成10年度から続いていた実績額の右

肩下がりにようやく歯止めがかかった。これは、たすけあい運動の重要性の再認識、役職員の危機感をもった取り組み、「共同募金運動」への信頼によるものである。

今年度の募金使途計画は、在宅福祉事業など地域福祉活動を行っている市町村社会福祉協議会の活動費として1億3542万1千円(61.4%)、地域福祉活動団体の支援や民間社会福祉施設充実の為に3897万円(17.7%)、その他全県的な福祉事業推進の為に4603万円(20.4%)となっている。



赤い羽根共同募金のしくみと特徴

赤い羽根共同募金は「共同募金会」という民間の団体によって、都道府県を単位にして行われています。各都道府県で「赤い羽根共同募金」に寄せていただいた募金は、都道府県内で地域福祉のために役立てられます。

赤い羽根共同募金は、支援を必要としている福祉施設、団体やグループなどから申請を受け、その内容を審査します。その後、募金に係る「助成計画」を定め、その計画を基に募金活動を行います。寄せていただいた募金の助成先は、ホームページで公表しています。

- ・ボランティア団体
- ・社会福祉団体
- ・社会福祉協議会
- ・NPO
- ・社会福祉施設

① 申請

都道府県共同募金会
・市区町村共同募金委員会(支会分会)

⑥ 助成

② 審査

③ 助成計画

⑤ 集める

④ 募金の実施

- ・会社
- ・学校
- ・家庭



ありがとうメッセージ



- 団体名 久米島町障害者家族会
- 事業名 地域交流事業
- 配分額 80,000 円

地域活動支援センターの利用者や地域の園児達、そして独居の方や民生委員に感謝を含めて交流会を行いました。園児の遊戯に目を細めたり、おばあちゃんから離れない子もいたり温かい交流会になりました。また、なかなか食べる機会のない島の懐かしい香りのする「ムチメー」にとっても喜んでいただきました。

- 団体名 中城村社会福祉協議会
- 事業名 福祉バス購入事業
- 配分額 4,304,000 円

以前のバスは老朽化により故障が多く、遠方でエンジンが止まるなど利用者に度々迷惑をかけておりましたが、今回のバス整備により地域の方々に安全かつ快適に利用していただけることになりました。

募金に協力いただいた皆様の温かい善意に応えられるよう、日々大事に活用していきたいと思います。



FAX 0088(8824)237503
社会福祉法人 沖縄県共同募金会
<http://www.okishakyo.or.jp/kyoubo/>

①沖縄銀行	石嶺支店	普通	No.1412281
②琉球銀行	石嶺支店	普通	No.335408
③沖縄海邦銀行	汀良支店	普通	No.0187945
④沖縄県農業協同組合	首里石嶺支店	普通	No.0021623
⑤コザ信用金庫	安里支店	普通	No.014384

- ふく おきなわけんきょうどう ぽんかい
 ・口座名義 (福) 沖縄県共同募金会 ※各銀行・農協 同一名義
 ・振込手数料は同一銀行内に限り窓口での免除

『東日本大震災義援金』
受付口座



平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受け、中央共同募金会は各都道府県共同募金会と連携して「全国災害たすけあい」を実施し、被災者支援の一助とするために災害義援金を募集しています。平成24年7月30日現在、沖縄県共同募金会へ集まった義援金は1億1992万8388円、災害等準備金15億16万8千円と合わせて16億3508万8388円を中央共同募金会へ送金しました。また、全国で集まった義援金は401億7589万9577円で、全額被災された皆様の生活再建に役立てられます。

ぬち 命どう宝くつないできた命を大切に 第60回九州児童福祉施設職員研究大会

九州社会福祉協議会連合会（以下、「九社連」）、九社連児童養護施設協議会、県社協、県児童養護施設協議会は6月20日から22日の3日間、那覇市において「命どう宝くつないできた命を大切に」をテーマに第60回九州児童福祉施設職員研究大会を開催し、九州各県から児童福祉関係者370名余りが参加した。

初日は玉木病院長の中山勲氏が「いのちの希い宇宙、生命、こころ」と題した基調講演を行い、沖縄特有の祖先崇拝などに触れ、「四代前には必ず16人の祖先があり、今日の私達が存在する」と受継がれている命の大切さを語った。

中央情勢説明は厚生労働省雇用均等・家庭局の田中浩之専門官が、社会的養護

の課題と将来像への取り組みを説明。参加者は「講師が児童福祉現場出身というこ

とで、とても分かりやすかった」と感想を述べた。2日目は4部会に分かれ

研究討議を行った。「これから社会的養護のあり方」をテーマとした第1研究部会では、シンポジストに全国児童養護施設協議会、沖縄県里親会、沖縄県コザ児童相談所関係者が登壇し、各団体・機関の立場からそれぞれの役割に基づいた連携強化について意見を交わ



「これからの社会的養護のあり方」について討議する第1研究部会

老人福祉施設関係者の九州ブロック大会を開催！ 「紺碧の空、光る海、輝く未来へin沖縄」 「美ら島・清ら心で結ぶ介護の絆」

九社連・九社連老人福祉施設協議会・県社協・県老人福祉施設協議会は九社連老人福祉施設協議会職員研究大会を7月10日～11日の2日間、宜野湾市と那覇市で開催した。

この大会は、九州各県の老人福祉施設関係者が一堂に会し、現場での実践活動の成果等を発表するとともに、それぞれ抱える課題等

した。午後はグループワークを行い、児童福祉施設や里親の取組みに関する情報を交換した。

最終日には義足のランナーの島袋勉氏（株式会社ラシーマ代表取締役社長）が記念講演の講師を務め、夢を諦めないことの難しさやチャレンジし続けることの大切を語った。参加者は

に対し協議し、研鑽を深めることを目的にしたもので、県内外から1500名余の関係者が参加した。

初日の基調講演では、全国老人福祉施設協議会中田会長が、地域包括ケアの様々な課題点をあげ、今後、老人福祉施設における科学的介護の実践・推進、更には社会福祉法人の使命として地域貢献事業への積極的

「自分自身を振り返る良い機会となった。子ども達にも伝えたい」、「これからの支援に活かしていきたい」と感想を述べた。



講師を務める島袋勉氏

な取組みの必要性を指摘し、これからの高齢者福祉の展望を述べた。

また、行政説明では、厚生労働省老健局高齢者支援課の懸上忠寿課長補佐が、介護保険制度改正・報酬改定の現状と今後の施策などを述べた。

記念講演では、笑楽過激団座長の玉城満氏が「沖縄のちゃんぶるー文化」と題した、ユーモア溢れる講演で参加者を魅了し、大きな笑いと拍手で会場を盛り上げた。

2日目は、事業・職種別テーマに「地域貢献・災害対策」の特別テーマを加えた9つの研究部会に分かれ、熱心な研究協議が行われた。



基調講演を行う全国老施協 中田会長

沖縄県障がい者スポーツ協会

NPO法人沖縄県障がい者スポーツ協会（理事長 高嶺豊）が7月5日に正式に設立した。

昭和62年の第23回全国身体障害者スポーツ大会をきっかけに県内で障がい者スポーツ団体が多数発足したものの、団体相互の交流が少なく、窓口が一本化されていなかった。今回、同協会を設立することで、関連機関・団体の情報を集約・発信するとともに、障がい者スポーツの振興と障がい者と健常者との交流を図っていく。

事業活動は、①障がい者スポーツの関連情報の一本化、②指導者・審判員の育成・確保、③福祉団体・スポーツ団体との連絡体制の構築、④障がい者スポーツの普及啓発活動の促進、に取組む。

同協会事務局長の金城鍛氏は「スポーツはあくまで体力維持・健康増進を図り、仲間づくりの手段。障がい者の社会参加を促すのが狙い」と、障がい者スポーツ振興の目的を語り、小中学校での体験教室の実施や大学オープンキャンパスでの積極的な啓発活動等さまざまな活動に取組んで

いることを説明した。一方で、身体的・精神的障害における総合的な活動や障がいを持った高齢者の社会参加が少ない点を挙げ、今後取組むべき課題として挙げた。

また、温暖な気候の沖縄には、国内外からスポーツ選手が合宿で訪れたり、観光で来沖している点に触れ、「県内ではほとんど知られていない。もっと普及啓発して障がい者に適した交通や施設の環境整備を促進して、スポーツコンベンションとしても展開したい」と経済効果にも言及し、各種関連機関・団体との連絡体制づくりの意義を強調した。

「第23回大会当時と比べ障がい者に対する環境や意識は大きく変化しているが、まだまだ改善が必要」と語る同協会の障がい者福祉の向上に向けた今後の活躍に期待がかかる。



車いすバスケットを体験する中学生

NPO法人 沖縄県障がい者スポーツ協会
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
☎098-885-6747 (FAX も同様)
E-mail : okiparaspo@yahoo.co.jp

社会福祉施設 しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金が充実
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします。

団体契約者
社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱代理店
株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(SJ11-12205 2012.2.24 作成)

『市町村社協災害対応マニュアル 策定支援事業』のモデル社協の決定

県社協では、市町村社協における災害対応マニュアル策定推進の新たな試みとして、『市町村社協災害対応マニュアル策定支援事業』を実施する。

この事業は、災害対応マニュアル策定を目指す市町村社協をモデル指定し、災害支援の専門アドバイザーと県社協が随時、助言・情報提供等を行い、マニュアル策定の支援をするもの。また、必要に応じて専門アドバイザーを派遣し、研修会や検討会議を開催するなど直接サポートを行う。

災害支援の専門アドバイザーには、阪神大震災以降、数多くの被災地で支援活動を行ってきた災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（通称・支援P）幹事の桑原英文氏を迎え、①那覇市社協②北谷町社協③北中城村社協④読谷村社協のモデル社協4カ所に対し今年度末までマニュアル策定支援にあたる。

1回目の現地指導として

7月23日～26日にかけて「災害対応マニュアル策定研修会」及び「災害対応マニュアル策定検討会議」を開催し、桑原氏が策定に向けてのポイントや具体的な進め方等を助言した。今後も桑原氏と連携して随時、相談やアドバイスの情報提供等を行い、災害対応マニュアル策定に向けて支援をしていく。

県社協ではこのほかに、昨年度に引き続き市町村社協を対象とした『災害マニュアル作成研修会』を予定している。



研修会にてアドバイザーの話を熱心に聞く社協職員

適切かつ円滑な運営を

生活福祉資金貸付事業担当職員研修会

県社協は、生活福祉資金貸付事業担当職員研修会を6月29日に県総合福祉センターで開催した。県内各市町村社協から、担当者や相談員ら56名が参加した。

貸付制度の適切かつ円滑な運営を図ることを目的に開催したこの研修会で、県社協民生部の宮城真政部長が昨年度の生活福祉資金実績と特徴を基調報告し、全体的に貸付件数が減少している点を挙げ、「特に総合支援資金、教育支援資金の落ち込みが大きい」と指摘した。さらに、償還率の低下にも触れ、「今後も各市町村社協で力を入れてほしい」と要望した。

すく解説した。

後半のグループワークでは各市町村社協担当者が事前に提出した質問事項19件を県社協民生部の各担当者が回答する形式で進化した。貸付と償還、その他関係団体との連携の課題等の質問を挙げ、総合支援資金における貸付対象要件判断の問題や行方不明者に関する償還の課題が多く挙がった。また、他法優先に係る課題も参加者の関心事項として挙げられた。

運営適正化委員会第7期委員選任

福祉サービス運営適正化委員会

運営適正化委員会では、第6期の同委員会委員の任期切れに伴い、6月27日に選考委員会を開催。第7期目となる12名の委員を選出し、委嘱した（左表）。今

期の委員長に竹藤登氏、副委員長に福井彰雄氏が就任

した。委員の任期は平成24年6月28日から平成26年6月27日までの2年間。福祉サービス利用援助事業の運営監視及び福祉サービスの苦情解決にあたる。



生活福祉資金貸付事業担当職員研修会

加入団体の機能を活かした 地域福祉活動に向けて

南城市社会福祉関係機関・団体連絡会が発足

デザイナー・サービス利用者の送迎の際、ある家族から老人福祉施設職員へ「知的障がいのある息子が家に閉じこもっている」と専門外の相談があり、家族が抱える複雑な悩みが明らかになった。施設職員によると、ここ数年同様の生活相談が増えているという。

南城市には、高齢者・障がい者・児童福祉施設が多数あるが、日頃から施設間の交流が少なく、平成18年の町村合併等もあって、専門分野以外の相談対応に苦慮していた。

これを受けて南城市社会福祉協議会は、平成23年10月から福祉関係者の「顔の見える」ゆるやかなネットワークづくりを目指して「社会福祉関係機関・団体連絡会」を開き、社協・施設・行政担当課職員等から成る準備会を中心に、今後の会運営のあり方について議論

を進めてきた。

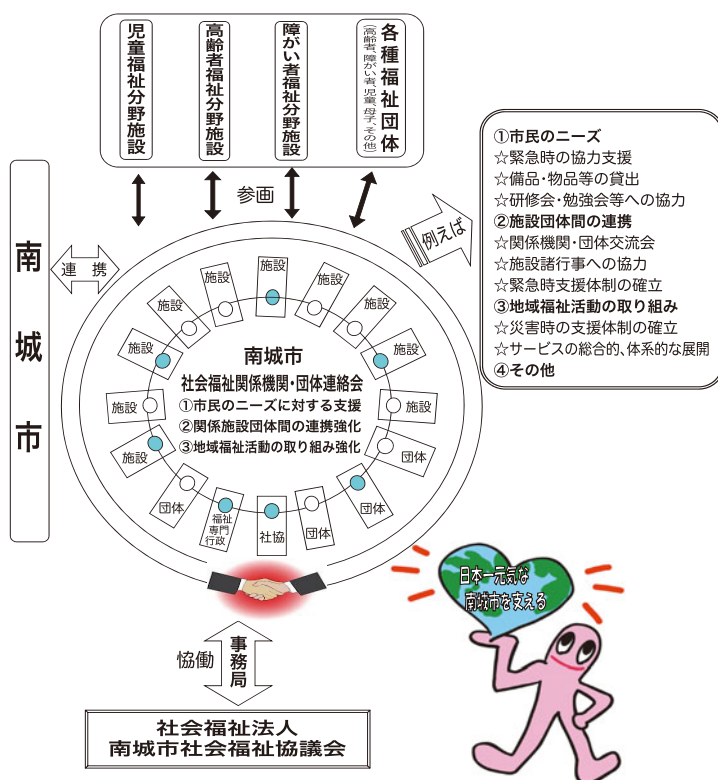
そのような中、昨年起きた東日本大震災の影響で、市社協と施設関係者等の防災対策に取り組む気運が高まった。関係機関・団体が集まって開いた幹事会では、緊急・災害時の相互支援体制の確立に向けて、平時から市社協や施設が連携して地域福祉活動に取組み、そのノウハウを共有する方向性を確認した。



南城市社会福祉関係機関・団体連絡会

7月3日には、市内の社会福祉施設や民生委員児童委員協議会、老人クラブ、介護支援専門員連絡会、行政担当課等の関係機関・団体に呼びかけ、市民の生活ニーズに応える体制づくりを図るため、「南城市社会福祉関係機関・団体連絡会」を発足し、市内37施設・団体・機関が加入した。この取組みは県内でも先駆的なものとして注目されている。発足式で、会則の制定・役員の選任、平成24年度事業計画が承認され、市社協内に事務局を設置した。また、加入施設に市民からの相談役を担う「地域福祉担当者」を配置するなど地域に根差した仕組みを整えた。今後は加入施設・団体の機能を活かした取組み内容を本格的に協議し、「市民に身近な存在」として地域への浸透を図っていく。

社会福祉関係機関・団体連絡会イメージ図



分野及び委員氏名	運営監視部会	苦情解決部会
1. 社会福祉に関し学識経験を有する者		
公益代表		
・竹藤 登 (県社会福祉士会会長)	○	○
・福井 彰雄 (県介護福祉士会監事)	○	○
・山城 眞紀子 (沖縄キリスト教短期大学教授)	○	○
・仲本 しのぶ (市民介護相談員なは代表)	○	○
福祉サービス利用援助事業の対象者を支援する団体を代表する者		
・玉村 安子 (県手をつなぐ育成会副会長)	○	
・島田 正博 (県精神障害者福祉会連合会会長)	○	
福祉サービスの提供者を代表する者		
・喜舎場 朝美 (県老人福祉施設協議会理事)	○	
・仲宗根 幸隆 (県心身障害児者施設協議会会長)	○	
2. 法律・財務会計に関する学識経験を有する者		
・喜多 自然 (沖縄弁護士会 弁護士)	○	○
・倉持 輝幸 (倉持輝幸公認会計士事務所公認会計士)	○	○
3. 医療に関し学識経験を有する者		
・大田 裕一 (平安病院院長)	○	○
・真栄平 勉 (県精神保健福祉士協会会長)	○	○

敬称略

ロンドン パラリンピック 出場選手を激励

7月25日に県庁県民ホールにおいてロンドンパラリンピックに出場する上与那原寛和選手(41)と仲里進選手(35)の激励会が行われた。

前回の北京大会で銀メダ



抱負を述べる上与那原選手(左)と仲里選手(右)

九州北部豪雨災害 熊本市・阿蘇市へ 社協職員8名を派遣

沖縄県社協では、7月に発生した九州北部豪雨災害で被害の大きかった熊本県熊本市、阿蘇市へ職員を派遣した。

これは、「九州ブロック社協災害時相互応援協定」(※)に基づき実施されたもので、7月26日～8月6日までの12日間、延べ2陣、

ル(マラソン)を獲得した上与那原選手は、今回200m等3種目のトラック競技に臨む。「どんなメダルでも僕にとつては金。メダルを目指して頑張りたい」と抱負を述べた。また、ウエルチエアラグビーの仲里選手は「日本は世界ランク4位でメダルを狙える。チームの状態もいいので、(メダルを獲得して)感動を県民に届けたい」と意気込みを語った。その他、車いすシンガーの謝花伊早武氏が歌でエールを送った。



九州豪雨災害ボランティア活動

8名を派遣し、現地の災害ボランティアセンターの運営支援を行った。

派遣に際しては沖縄県内の市町村社協にも協力を呼びかけ、本部町と那覇市の両社協から1名ずつが派遣に加わった。

被災地では大雨による浸水や土砂が流入した家屋が多く、泥の撤去や家財道具の運び出し等に多くのボランティアが活動している。災害ボランティアセンターでは住民からのニーズを受け付け、ボランティアを送り出すコーディネート業務

を中心に行った。
(支援活動の詳細な報告は次号掲載予定。)

※「九州ブロック社協災害時相互応援協定」とは

平成17年8月に九州・沖縄地区の8県2政令指定都市(平成24年4月から熊本市が参加)の社協で締結された。大規模な災害時に設置される災害ボランティアセンターの運営や生活福祉資金の貸付業務等を円滑に進めるため職員派遣等を通じて相互に支援することが取り決められている。



福祉の仕事をお探しの方必見!

福祉の仕事希望するみなさんの温かい優しい気持ちを応援します!

■福祉人材研修センターを利用して福祉の求人を検索!!そして応募しよう!!

まずは・・・ お仕事を探してみよう!! ➡ <http://www.fukushi-work.jp/>

取扱い職種

介護職員・保育士・セラピスト(理学療法士・作業療法士等)・生活指導員・看護師・相談員・保健師・ホームヘルパー・栄養士・介護支援専門員・調理師・事務員etc.

困難事例へアドバイス

高齢者虐待事例個別相談会

県社協は高齢者虐待防止の取組みの一環として、7月19日に県総合福祉センターにおいて平成24年度第1回高齢者虐待事例個別相談会を開催した。

この相談会は、各市町村の地域包括支援センター・在宅介護支援センターで抱えている困難事例を取り上げて、高齢者虐待の早期解決や担当職員の資質向上を目的としており、沖縄弁護士会・沖縄県社会福祉士会と県社協が三者契約を結んでいる高齢者虐待対応力向上事業の一環として行われた。



助言を受ける虐待対応担当者

今回は2名の専門家（弁護士1名、社会福祉士1名）を招聘し、申込みのあった3市町村の包括支援センターと面談した。各々割り当てられた時間を活用し、専門家から具体的な助言等を受けた。

特に弁護士に対しては法的見解を求める質問が多かった。

この個別相談会は年に2回行っており、相談費が無料です。虐待の事例を抱えている市町村（関係機関）は、次回（11月予定）の機会に是非活用ください。

また、有料で専門職派遣事業も実施していますので、緊急対応が必要な事例等がある場合は、本会まで問い合わせください。

【問い合わせ】

県社協
高齢者虐待対応力向上事業
☎098(887)0170(直通)

寄付・寄贈者芳名

6月～7月

企業や個人からの寄付・寄贈は県社協活動の貴重な財源となっています。ご支援いただき、誠にありがとうございました。

沖縄明治乳業（株）

6月26日、沖縄明治乳業株式会社（代表取締役社長山城宝氏）から第33回明治ファミリー劇場「ブレーメンの音楽隊」の招待券413枚を寄贈いただきました。招待券は毎年県内17か所の児童福祉施設の子どもたちに配分されており、今年で23回目を数え、延べ10312名を御招待いただきました。



贈呈式（写真中央左に山城代表取締役社長、その右に県社協新垣会長）

沖縄県生コンクリート協同組合

7月6日、県生コンクリート協同組合（理事長津波古勝三）から50万円の寄付をいただきました。

同組合は創立40周年記念事業の一環としてチャリティイーゴルフコンペを企画し、その収益金を社会福祉発展のために寄付くださいました。



贈呈式（写真中央左に上原常務理事、その右に県社協比嘉常務理事）

● JXフオールディングス 株式会社 様

● 新垣匡子 様

● 佐久本真智子 様

● 九州納豆組合 様

● 全国労働者共済生活組合

● 連合会沖縄県支部 様

● 大田直也 様

● FC琉球

（株）ドリームファクトリー

光和グループ 様

● ホテルJALシテイ

那覇 様

沖縄石油ガス株式会社

7月17日、沖縄石油ガス（株）様から車椅子4台を寄贈いただきました。

創立50周年記念事業の一環として県社協と浦添市社協へ各2台の車椅子を寄贈くださいました。

贈呈式で代表取締役社長の幸喜徳子氏は「これまで無事故で提供できたのも皆様の御協力の賜物であり、感謝いたします。何か社会に貢献できたらの思いで寄贈させていただきました」と挨拶くださいました。



贈呈式（写真中央左に幸喜代表取締役社長、その右に県社協新垣会長）

かりゆし長寿大学校特別公開講座

(宮古・八重山地区) 開催

県社協では、遠隔地の高齢者もかりゆし長寿大学校の講座を体験できるように特別公開講座を6月26日、27日に開催した。初日の宮古地区(沖縄県宮古島青少年の家)では77名、翌日の八重山地区(石垣市商工会館)では65名の計142名が参加した。

講師に東洋大学名誉教授の比嘉佑典氏と健康運動指導士の倉橋聖己氏を招いた。比嘉氏は、「沖縄の伝承文化」と題して講話し、「伝



伝承文化を講義する比嘉佑典講師

承文化の継承は子どもの育成や郷土文化に貢献し、自分自身も童心を取り戻して、自己活性化が図れる」と強調。また、「地域に文化の花を咲かせる、花咲じいさん、花咲ばあさんを目指すう」とユーモアを交えながら説明した。

倉橋氏は、「健康と運動」と題して正しいウォーキングフォームやシューズの選び方等を実演や実物を示しながら分かりやすく解説。また、参加者と一緒になって、ウォーキング方法やストレッチ方法を音楽に合わせて実践した。

会場は参加者の活気で溢れ、「地域の伝承文化を、島の子ども達に伝えていきたい」、「ウォーキング運動を毎日実践していく」、「次回もまた開講してもらいたい」など参加者は感想を述べた。

第4回 沖縄ねりんピックを開催

一般観覧者・交流行事参加者を募集中

高齢者の健康の保持・増進とスポーツ、文化活動を通し参加者相互の交流や生きがいと健康づくりを促進し、明るく活力あふれる長寿社会づくりを目的として第4回沖縄ねりんピックを開催する(主催/沖縄県・県社協)。

来年度、高知県で開催する「第26回全国健康福祉祭こうち大会 ねりんピック」よさこい高知2013への選手(チーム)の派遣選考を兼ねている(一部競技を除く)。



正しいウォーキングを実践する聴講生

スポーツ交流大会

◆実施競技

ラージボール卓球 テニス
ソフトテニス ソフトボール
ゲートボール ペタンク
ゴルフ マラソン 弓道
剣道 グラウンド・ゴルフ
太極拳 ソフトバレーボール
ダンススポーツ ボウリング
還暦軟式野球 水泳
なぎなた 計18種目

◆開催日 9月20・22・23日
(木・土・日)

※開催日は競技により異なる。

文化交流大会

◆実施競技及び開催日

囲碁 9月22日(土)
将棋 9月23日(日)

レクリエーション交流行事

スポーツ・レクリエーションを通じて、子どもから高齢者までの世代間交流を図ることを目的としてレクリエーション交流行事を行う。

◆開催日 9月23日(日)

◆実施内容(予定)

- ① 沖縄の民謡
- ② 屋内ゲーム・ダンス
- ③ チャレンジ・ザ・ゲーム
- ④ ウォークラリー

※沖縄ねりんピックの詳細(大会日程等)は、県社協ホームページをご覧ください。
【ホームページアドレス】
<http://www.okishakyo.or.jp/kiiki/>



2012福祉機器展 福祉用具展示会を通して

県社協（介護・実習普及センター）は7月6日、7日に県総合福祉センターにおいて、福祉用具の普及と拡充を図ることを目的に福祉機器展を開催した。

2日間の来場者は、研修会参加者を含め700名で、様々な福祉用具の取り扱い等実際に見て触れて体験した。



福祉機器展屋内会場

（参加者の声）

★使い勝手の良い便利な器材が出ていてビックリした。日々前進している事が分かり嬉しく思った。

★質問に丁寧に楽しく答えてくれたのでとても良かった。

★知識として知らなかったところも、知ることが出来勉強になった。試供品ももらったので、試してみたい。



機器展に参加する来場者

「最新機器による、持ち上げない介助、腰痛予防対策について」利用者様にとって、真のやさしさとは何か？」

7月6日は「最新機器による、持ち上げない介助、腰痛予防対策について」利用者様にとって、真のやさしさとは何か？」と題した研修会を開催し、講師に本屋愛子氏を招いた。本屋氏は最新の福祉機器を活用して「利用者への安全と快適性や介護者の腰痛対策が必要だ」と相互に配慮した介護のあり方について講義した。

（参加者の声）

★実際にリフトを体験できたのでその利点を実感できて良かった。

★体に負担のかかる介護だけではなくリフト等を使って介助をしても大丈夫だと

「らくらく移乗編！試してみよう福祉用具」

7月7日午前に開催した「らくらく移乗編」試してみよう福祉用具」研修会では、講師に古謝早苗氏を招いた。古謝氏はこれまでと異なった移乗方法を実演し、「本人の能力、介護者の状況、安全で確実な方法を選択し、生活や能力に合った移乗方法を見つけることが大事だ」と説明した。

感じた。また、実際にリフトを操作したり乗ってみたりと介護する側とされる側両方の貴重な体験をすることができた。



持ち上げない介助を実演する本屋氏

（参加者の声）

★利用者の身になって負担にならないような介助方法等をもっと考えていけたらと感じた。

★移乗の仕方など普段やっている事と違うやり方が学べてよかった。

★講師が分かりやすく説明していた為、大変良かった。宮古から参加したが、是非宮古の施設で研修してほしい。



能力や生活に合った移乗方法を実践する古謝氏



リフトを体験する受講生

「誤嚥性肺炎の予防における口腔ケア」サイレントアスピレーション対策」

7月7日午後は「誤嚥性肺炎の予防における口腔ケア」サイレントアスピレーション対策」研修会を開催し、講師に鉄戸豊氏を招いた。鉄戸氏は「口腔ケアを行う時には、利用者への声掛けとスキんシップを行い、リラクセスした雰囲気を実施することが大切だ」と同肺炎の予防方法を話した。

（参加者の声）

★口腔ケアの大切さや口腔ケアの流れを学ぶことができた。



口腔ケアについて説明する鉄戸氏

県社協・福祉人材研修センター 実施研修の報告

社会福祉施設初任 職員研修

県社協（福祉人材研修センター）では、5月17・18日、

県総合福祉センターにおいて、社会福祉施設初任職員研修を開催した。福祉施設職員に必要な基礎知識や心得等を身につけ、職員の意欲と資

★口腔ケアでは声掛けなどをするが、マッサージ等はいなかった。参考になった。職場でも取り入れてみようと思う。

★施設では、口腔ケアを行っているが、乾燥予防、菌の繁殖等に注目していない事が多い。肺炎予防も含め意識を高める為にも良い研修であった。

【お問い合わせ】

沖縄県介護実習・普及センター

☎ 098(882)1484

FAX 098(882)1486

質向上を目的に開催したこの研修会に社会福祉施設の初任職員約100名が参加した。

初日は、沖縄県社会福祉士会会長の竹藤登氏が「社会福祉とは」福祉施設の課題と福祉従事者の役割、「福祉施設に勤務して」と題して、講話・討議を行った。竹藤氏は、「保健の目的は『維持』、医療は『治療』、福祉は『支援』である。医療が診断によって患者さんの悪いところ（マイナス）を見つけるのに対し、福祉は利用者のプラスの面を



講師を務める竹藤氏

見つけ、残存能力を生かす支援を行うことが大事。出来ない部分を福祉サービスによる支援で補う」と保健・医療・福祉の連携を具体的に説明した。

2日目は、午前に「身に付けたコミュニケーション術」と題して、フリーアナウンサーとしても活躍しているコミュニケーションシヨンスクールセルフコンフィデンス沖縄の吉田文子氏が講話した。午後は特別養護老人ホーム比謝川の里介護統括部長の渡口彦直氏が進行し、「福祉施設職員に求められるもの」と題してグループ討議を行った。



参加者は、「福祉従事者として専門分野を含め、他分野の知識を身に付けることが大切だと感じた」、「将来のビジョンを持つて仕事をするこの大切さを知った」等と感想を述べた。

保育所初任保育士研修

県社協は6月5・6日（本島南部）、7・8日（本島中北部）、6月28日（宮古）、29日（八重山）と、県内各4地区において、保育所初任保育所研修を開催した。保育における必要な基礎的知識と技術等を学び、職員としての資質向上を目的に、総数315名の初任保育士が参加した。

研修では、女性ライフサイクル研究所の津村薫氏と森崎和代氏が「やさしい発達心理学」、「保護者対応のポイントを学ぶ」、「保育者のストレスマネジメント」等の講話・演習を実施した。津村氏は、「基本的信頼」とは、親から大切にされていると

感じさせること。それで初めて、他者も尊重するといふ社会の原則を学習し、自己コントロールが可能となる。ここで大事なことは、決めたルールは守るが、行動とは別に子どもの感情を受け入れること。また、子どもの気持ちを言葉にし、寄り添うことが大切。」と子どもの発達について解説した。参加者は、「今までで一番実践的で、具体的な研修だった。対応を改めたいと思うところや『自分頑張っている』と自信を持つ事ができた点など、すぐ保育に取り入れたいと思う事が多かった。もっと勉強して、講師のように素敵な保育士になれるように頑張ろうと思った。」と感想を話した。

福祉事務所等生活保護 担当職員研修(新任)

県社協は5月29・30日、県総合福祉センターにおいて、生活保護行政に携わる職員として必要な基本的知識と技術を習得することを目的に、福祉事務所等生活保護担当職員研修(新任)を開催した。県内各福祉事務所等で生活保護業務を担当する新任職員約90名が参加した。

初日は沖縄県福祉保健部参事の里村浩氏が「生活保護の運用と自立支援」、那覇年金事務所の小野寺和史氏が「国民年金について」の講義を行った。

2日目は、沖縄大学福祉文化学科教授の富樫八郎氏が「個別的援助の基礎理論と実際の技法」と題して、援助で必要とされるソーシャルワークの理解や面接を進める上でのポイント等を講義・演習した。さらに午後は受講者が、各々の業務で困っている現状や今後の解決策等についてグループ討議を進めた。

参加者は、「今回の研修で、今まで理解できていなかった年金制度や社会福祉事業の仕組みなどを改めて学ぶ事ができた。演習やグループ討議では、他市町村の取組・

問題等、非常に興味深い話を聞くことができ、自らの業務の糧となった。同じ問題でも市町村によって対処の方法が異なるなど、多視点から問題解決に向けたヒントが得られた」等の感想を話した。



福祉事務所等生活保護担当職員研修(新任)

福祉人材研修センターでは、福祉従事者に対する研修を実施しており、研修案内は、随時本会ホームページに掲載している。

ホームページアドレス

<http://www.okishakyo.or.jp/>

linzai



39th 老人と障害者の自立のための 国際福祉機器展 H.C.R.2012

Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2012



会場
東京国際展示場
「東京ビッグサイト
東展示ホール」
(東京・江東区有明)

会期
2012年
9月26日(水)
~28日(金)

開場時間
10:00~17:00

●開催内容(予定)

- 福祉機器約20,000点を総合展示
- 国際シンポジウム「デンマークの税と社会保障(仮題)」を開催
【日時】2012年9月27日(木)
【会場】東京ビッグサイト 会議棟6階「605-608会議室」
- H.C.R.セミナー
福祉職から一般、福祉利用者、家族を対象に、保健・福祉・介護をテーマに3日間開催。
- H.C.R.出展社プレゼンテーション
- H.C.R.特別企画

①はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー
「基本動作編」「自立支援編」「住宅改修編」を10のテーマに分類し、3日間開催。

②高齢者の生活支援用品コーナー
高齢者の日々の生活を便利にするグッズや工夫がなされた製品を紹介。

③コミュニケーション機器の使い方セミナー(仮題)
携帯電話など身近にあるテクノロジーの福祉的利用方法について解説・実演。

④ふくしの相談コーナー 福祉機器・リハビリ・自助具の相談コーナーを設置。

⑤障害児のための「子ども広場」 子ども用福祉機器相談・療育相談も実施

⑥福祉機器開発最前線 研究・開発中の機器や新製品を紹介

⑦高齢者世帯向けの手軽な日々の食事
市販の弁当・惣菜も工夫次第で栄養バランスが取れた食事に。各日1回開催。

⑧ふくしの防災・避難用品コーナー

⑨被災地応援コーナー
東日本大震災で被災した東北地方の障害者授産施設の製品を販売するコーナー。その他、多彩なプログラムを実施。

※プログラムは変更されることがあります。
最新情報と詳細はH.C.R.Web(<http://www.hcr.or.jp>)サイトでご確認ください。

入場料 無料・登録制(一部のプログラムは有料)

出展 15か国・1地域540社より
約20,000点の福祉機器を総合展示

WEBサイト <http://www.hcr.or.jp>

H.C.R.2012事務局 〒100-8980
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
(財)保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052/Fax. 03-5512-9798

～ライブラリーより本の紹介～

『あの日』に生まれてきた命

◆宮城、福島で命をはぐくむお母さんの軌跡

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を生き抜いた母親と子どもの軌跡のエピソードをつづった一冊です。医療器具もない状況の中で出産した秘話や避難所から母乳を届けた体験などが子に対する母親の献身的な様子が鮮明に記されています。

社会福祉ライブラリー（県総合福祉センター東棟 2 階）で貸出ししています。

【監修】 鮫島 浩二

【発行】 (株)アスペクト

【定価】 1,470 円



福祉関係者をはじめ、社会福祉に関心のある方なら

います。

この大会は、県内の社会福祉功労者を顕彰することにも福祉課題や今後の福祉事業のあり方への共通理解を深め、社会福祉の発展に寄与することを目的としています。

県社協では、10月23日（火）に沖縄コンベンションセンター（劇場棟）において「第55回沖縄県社会福祉大会」を開催します。

第55回沖縄県社会福祉大会
開催のお知らせ

どなたでも参加できます。

【日時】 10月23日（火）

午後1時30分開会

【会場】 沖縄コンベンションセンター劇場棟

【式典】 県知事表彰、大会

長表彰

【記念講演】

演題 「激動する社会、福祉の方向を考える」

講師 炭谷茂氏

（恩賜財団済生会理事長・元環境事務次官）

【参加費】 無料

【主催】 沖縄県、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県共同募金会

第15回
芸能チャリティー公演

11月10日（土）

那覇市民会館

昼・夜2回公演

県社協では、社会福祉活動の資金造成を目的に「第15回芸能チャリティー公演」を開催します。

公演では、琉舞から日舞、八重山舞踊、フラダンスに至るまでさまざまな踊りのほか、民謡、器楽演奏、空手演武にマジック等々、実に多彩なプログラムをお楽



第54回沖縄県社会福祉大会

しみいただけます。

多くの県民の皆様が芸能をご鑑賞いただくことで、社会福祉活動へ協力いただくと思います。

▼日時 11月10日（土）

（昼の部）午後1時半開演

（夜の部）午後6時開演

▼会場 那覇市民会館

▼入場料 前売1500円

当日2000円

今回のチャリティー公演では、東日本大震災で本県へ避難された方が「ニライ・カナイカード」を提示すると、無料で鑑賞できるようになっています。



芸能チャリティー公演

芸能チャリティー公演
前売券のお求めは

TEL 098(887)2000
県社協総務企画部まで

表紙の絵

作品名「支柱（泊大橋）」



作成者 仲村 正 氏

友人に誘われて、泊漁港で描いた作品。支柱というシンプルな被写体だが、支柱の影や背景の配色にひと工夫加えている。また、実際に見えているものを描くだけでなく、そこには付け足したり、省いたりと被写体を際立たせている。周りからのアドバイスを受けながら、独自の絵画を模索する仲村さんは、今も絵画活動に取り組み、数々の作品を生み出している。